

②授業における iPad の活用

授業における iPad 等の具体的な活用状況であるが、参観した世界史の授業では教師が教科書の内容を口頭で説明しながら、必要に応じて資料として地図を提示し、生徒は表示用モニターでその内容を確認するという学習を行っていた。

また、定期考査対策として、教師が既習内容を確認するために iPad に保存してある 4 択問題を出題し、生徒は表示用のモニターに提示された問題を読んで口頭で答える学習に取り組んでいた。

さらに、各自に与えられている iPad に収められている定期考査用の 10 問からなる択一式の練習問題を解き、その正答率を確かめた後で、誤答した問題を改めて解き直すというドリル学習を行っていた。(図 2-1-3, 図 2-1-4)



図 2-1-3 択一式練習問題を解く生徒

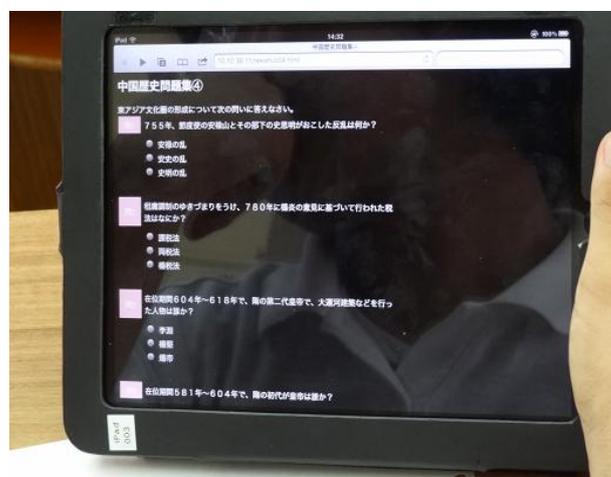


図 2-1-4 択一式練習問題の画面

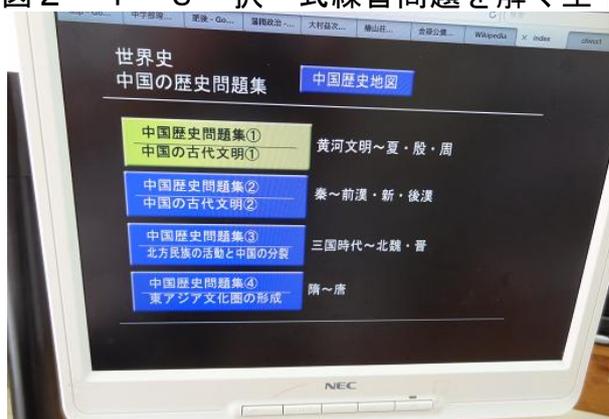


図 2-5 系統的にまとめられた練習問題

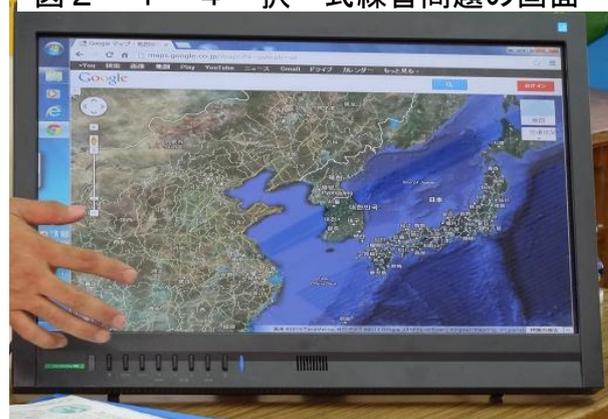


図 2-6 タッチパネルに対応したディスプレイ

③サーバーによる練習問題等の管理

A 盲学校において、このように授業中に iPad 等を効果的に活用することができている大きな要因は、作成された補助教材としての資料や練習問題を専用のサーバー (クラウド) に保存しておき、アクセス権のある教職員が場所や時間等にとらわれず、自由に

取り出して活用できる環境が整っていることであると言える。

このような環境は普通科や専攻科といった学部を超えて整えられて、特にあはき国家試験対策としての模擬試験等は大きな成果を収めているという。

※ 本事例（特別支援教育教材ポータルサイト掲載事例）は、独立行政法人国立特別支援教育総合研究所「B-291 特別支援学校（視覚障害）における教材・教具の活用及び情報の共有化に関する研究－ICTの役割を重視しながら－」（平成26年3月）、101-102に記載された内容である。